

とりでこども未来会議2024 開催概要

実施概要

- ・日付：令和6年7月30日（火）13時30分～16時30分
- ・会場：取手市福祉交流センター 1階多目的ホール
- ・参加者：高校生24名（市内全7校）
取手市職員11名

プログラム

- ・市長あいさつ
- ・会議の進め方についての説明
- ・「まちカタルカ」を使用したアイズブレイク
- ・テーマの前提となる背景についての説明
- ・ワーク①「自分の居場所」
- ・ワーク②「魅力的な駅前ってどんなところ？」
- ・まとめと発表
- ・講評、修了証授与、写真撮影



ワークショップ

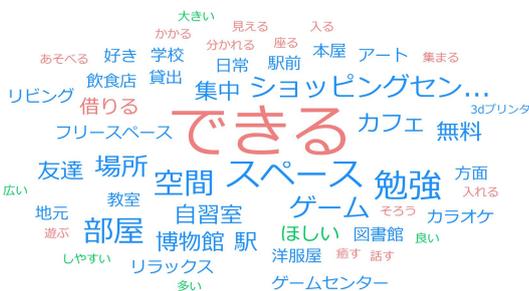
参加者を6グループに分け、「こどもまんなか社会」へ向けて若者の生の声を聞き、こども計画策定の参考とするためのワークショップを実施した。

ワーク①では前半「自分が安心できる場所、お気に入りの場所、取手市でのお気に入りの場所」といった居場所に関する自身の考え方と後半「こんな場所があったらいいな」といった夢を話し合った。「友人などと楽しく賑やかに過ごす場所」「一人でリラックスしながら集中できる落ち着いた場所」といった両極の場所が心地のよい居場所となっており、そういったことが気兼ねなく自由に安価で利用できる場所が求められていることがわかった。

ワーク②では具体的に取手駅前にフォーカスをし、前半「駅前にどんな機能があると嬉しいか」公共施設に限らず自由な意見を出し合い、後半「どんな図書館だったら若者が行ってみたいと思える施設になるか」西口駅前開発事業で予定されている図書館について具体的に踏み込んで意見を出し合い、その結果を発表した。駅前は映画館や飲食店といった賑やかな場所の充実と仕切りのある自習スペースといった落ち着ける場所の充実が挙げられ、図書館に関しては植物に囲まれ景色をみながら集中できる空間など、また、体験型図書館といったミニシアターやドリンクバー、水族館、カフェなどが併設された静と動のどちらも融合した施設が理想として挙げられた。



テキストマイニング (ワーク①「自分の居場所」)

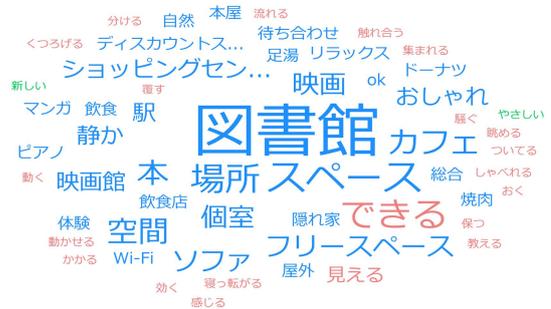


※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

*テキストマイニングとは？

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさと色で図示しています。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞を表しています。

テキストマイニング (ワーク②「魅力的な駅前ってどんなところ？」)



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

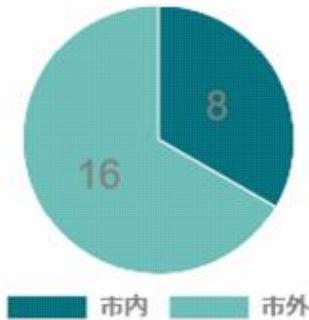
今後に向けて

- 次世代を担う若者が将来にわたって安全に安心して過ごすことのできる居場所を数多く選択できるよう、今のような居場所を求めているのか提案された意見を参考に、今後居場所づくりを進めていく必要がある。
- 今後「こどもまんなか社会」を作り上げていく上で、若者自身が主役であるということを理解することで、自分事として主体的に街づくりについて考えるきっかけとなっていた。
- 若者自身に思いや考えがあっても、市へ伝える手段がなかったという意見があったことから、今後も継続して若者当事者の意見を聞き、対話をするという仕組みづくりを行っていく必要がある。

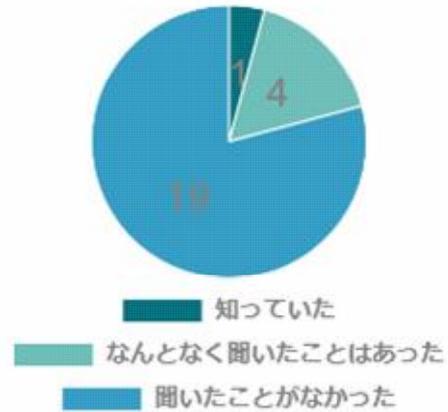
とりでこども未来会議2024 開催概要

参加者（高校生）アンケート調査結果

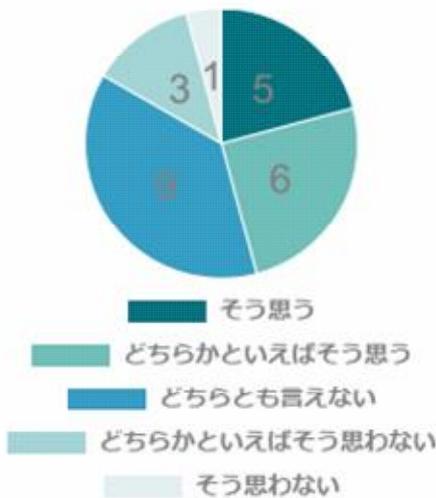
お住まいは市内ですか？市外ですか？



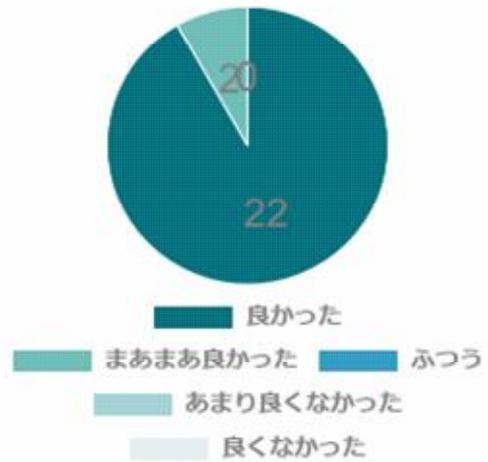
「こどもまんなか社会」という言葉を知っていましたか？



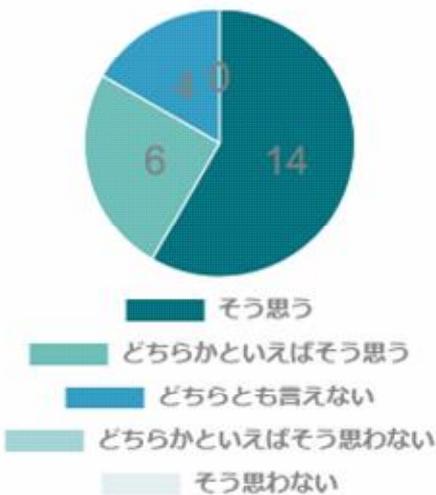
将来にわたって取手市に住みたい、または今後住んでみたいと思うか？



今回の「とりでこども未来会議」に参加してのご感想をお聞かせください。



今後このようなワークショップなど、市が行うまちづくりに関する取り組みに参加したいと思いますか？



とりでこども未来会議2024 開催概要

参加者（高校生）アンケート調査結果

自由記述（ワークショップの感想、市に関する意見等） * 抜粋

- ・職員の方がワークショップに入ってくれたので、アイデアがすらすら出てきて話し合いが円滑に進んで楽しかったです。
- ・自分が住んでいる街について改めて考えるきっかけとなりよかったです。
- ・他校の高校生と一緒に積極的に取組み、意見を出し合うワークショップはとても良い経験になりました。
- ・これまでこんなあったらいいなという考えはたくさんありましたが、中々伝える機会がなく心の中で留めてしまっていたのですが、気持ちを伝えられて共感してもらえてとても嬉しかったです。
- ・今回のワークショップで一つのテーマを違った見方や考え方を通して取り入れることができました。また、現実的にはならないことでも自由にアイデアを出し合うことが大切だと強く感じました！昨年の政策推進課でのとりで未来会議に引き続き参加してとても良かったです！
- ・他校の生徒と職員である大人の方と一緒に様々な議題について話し合い、色々な角度から考えることができました。
- ・色々な面白いアイデアを聞いたり、考えたりすることができて楽しかったです。
- ・普段中々できない話し合いの体験ができました。
- ・初めは緊張していましたが、アイスブレイクを通して緊張がほぐれ、楽しく話すことができました。また参加したいです！
- ・他校の高校生と話す機会はあまりないので、とても良い経験と思い出になりました。
- ・緊張したけど楽しかったので、また機会があれば参加したいです。
- ・今回考えた目標が達成できれば本当に大好きな街になると思いました。
- ・意見を出しやすい雰囲気、構成がとても楽しかったです。
- ・とても緊張しましたが、市役所の方が優しく緊張がほぐれました。
- ・お菓子も置いてあって気楽に話すことができました。職員の方も話に参加してくれて楽しく話し合いができました。
- ・他校の高校生と交流ができてよかったです。

参加者（職員）アンケート調査結果

自由記述（ワークショップの感想、意見、改善点等） * 抜粋

- ・離れた場所に座っている高校生の声が聞こえにくいことが多くあり、もう少し距離が近いといいなと思いました。
- ・考え込んでしまう場面が多かったので、テーマが発表された後に、考える時間が少し設けてあれば、話しやすかったかもしれないと感じました。
- ・お菓子が置いてあったことがかなり良く、最終的にはみんなリラックスして話していました。
- ・学生の柔軟な意見を聞くことができ刺激になりました。
- ・子どもまんなか社会の実現に向けて子どもの声を聴くことは非常に大事だと思います。子ども計画の策定にあたっては、声をあげづらいこどもや、ひきこもりのこども、いわゆるマイノリティのこどもの声をどのように拾って反映させるのか、という点が難しいと思っています。
- ・ワークショップの時間がとても短く感じる楽しい時間でした。テーマを前もってこどもたちに伝えてみることもよいのかもしれないと思いました。
- ・こどもたちが率先して意見を出せる雰囲気を作り出すことに難しさを感じました。
- ・放課後こどもクラブや公民館、こども食堂等の行政が管理や運営補助を行っている「居場所」についてほとんど意見が出ませんでした。今後ともそれら施設の周知をしていく必要性を感じました。
- ・気軽に話せる雰囲気がよかったです。学生の意見を聞く機会はなかなかないので勉強になりました。
- ・模造紙に書くのを遠慮している様子だったので、最初に自分の意見（キーワードでも）を一つは書いてもらうようにするとよいのかなと感じました。写真でもよいのでたくさん書き込んである模造紙の例があると嬉しいです。「このくらい書き込んでいいんだ」と高校生も職員もイメージしやすくなると思います。

